観光都市「京都」を遡る

－新出絵巻で探る名所と人権ゆかりの地－

山路興造

第３回　2018 年８月８日分レジメ

第２回分続き

（５紙）は３紙に続けて誓願寺以南の寺町通りを、南に向かって腹帯地蔵・蛸薬師・六条道場・四条道場・冠者殿社・大雲院と進む。

（上段）

はらおびのちぞう（腹帯の地蔵）―

蛸薬師（妙心寺）の北側にあり、**清帯寺**と称した。この寺の本尊は腹帯地蔵と称され、安産の地蔵とし多くの女性の信仰を集めた。天正 13 年（1585）に当地に移る以前は、新町下立売にあり、鎌倉時代から信仰があったという。明治６年に廃寺となった。願を掛けて安産に済めば帯を奉納した。

たこやくし（蛸薬師）

現在は妙心寺と号す浄土宗の寺であるが､これは明治 16 年以降の名称で、江戸時代は円福寺と号した。蛸薬師と俗称する石像薬師像を本尊とする。

くわじやどの（冠者殿）→この解説は間違い。

慶長年間以降に四条寺町東入るの祇園社御旅所に遷された祇園社境外摂社。以前は烏丸高辻北にあった大政所社に鎮座していた。商売繁盛の神として信仰があった。付近は祇園社の御旅所である。

（下段）

六条のどぢやう（六条の道場）

正式名称は歓喜光寺。時宗の寺で近世以前は六条河原院跡地にあったためこの名で呼ぶが、天正末年以降明治 40 年までは、寺町錦小路に位置した。錦天満宮の南、四条道場金蓮寺の北側。錦天満宮はこの寺の鎮守社。

四条のどぢやう（四条の道場）

同じく時宗の寺で。六条道場の南隣に位置する。金蓮寺と称し、鎌倉時代の創建当初から東京極（寺町）四条のこの地にあった。

てひあん（貞安）

四条道場の四条通りを挟んで南側にあった浄土宗大雲院のことで、貞安は安土宗論の勝者で当寺開祖の名に因む｡昭和 47 年に八坂神社の東に移転した。

○豊臣秀吉による京都改造

京都は永禄 11 年（1568）９月の織田信長京都入京を契機として新しい時代に

転換するが、町そのものが大きく変貌するのは豊臣秀吉の時代になってからである。古代都市が、聚楽第を城とした城下町に変えられるといってもよい。

① 天正 18 年（1590）から始める町割の整備。
聚楽第を中心とした大名屋敷の整備。公家町の整備。

② 天正 13 年以降、天正 19 年の間に、洛中の寺院の多くが、東京極大路の東側に寺地をあたえられて移転。寺町通りが成立する。その数 120 ヵ寺程とされるが、塔頭などを含めると膨大となる。また下御霊社や市姫神社、祇園御旅所など神社も移転させられている。資料 1

③ お土居の構築（全長 5 里 26 町）―天正 19 年閏 1 月以降　お土居の開口部（１０ヵ所以上あった）。資料 2

④ 五条橋の移転（新大仏橋）。

⑤ 城下町のセオリーとしての被差別民集落の移転。余部（天部）
天正 15 年、中世期以来の余部の地が大雲院に与えられ、三条橋東の地に移転させられる。

○六条道場歓喜光寺　一遍上人の弟子聖戒によって創建された地は、六条河原院跡地であった故に六条道場と呼ばれる。その後烏丸高辻などに移転。秀吉によって京極錦南に移る。錦天満宮はその鎮守社。国宝「一遍聖絵」を所蔵。明治 5 年、錦天満宮を分離。同 40 年に東山五条に移転。さらに昭和 50 年に山科に移転する。

○四条道場金蓮寺　四条大路北・東京極大路東に鎌倉時代末期に創建される。延文元年（1356）にその周辺一帯（四条京極四町々）が足利義詮によって佐々木道誉に与えられ、その邸となったが、道誉はその一部を金蓮寺に寄進したといわれる。染殿寺蔵は金蓮寺内にあった地蔵堂である。

○大雲院　織田信長の命によって行われた浄土宗の安土宗と日蓮宗の宗論に勝った貞安によって二条烏丸に建立された寺院。寺名は織田信忠の法号による。秀吉の命で天正 18 年に余部屋敷の地に移転した。昭和 47 年までこの地にあったが、八坂神社の東南に移転した。塔頭は 12 あったとされるが、本光院・是住院・信養院・南昌院の 4 院は、現在でも旧地に残る。

○冠者殿社　俗に誓文返しの神という。偽証の罪を救うとされる。参詣日は旧暦 11 月 20 日（明治以降は 10 月 20 日）とされた。祇園や先斗町の芸妓が無言参りも同種の信仰であるが、近年は祇園祭の神輿が渡御する頃におこなわれるようである。隣に悪王子社が祀られる。

○祇園御旅所　本来、烏丸仏光寺以南、烏丸高辻までの東側方一町を占めていた大政所御旅所（中御座と八王子）と、車屋町通・夷川付近にあった少将井御旅所を（西御座）が、秀吉によって天正 19 年に移転させられて成立した。それ以前よりこの地には冠者殿社（東京極四条の南東角付近）があった。
御旅所は四条通りを挟んで両側にあり、中御座と八王子の神輿は北側の御旅所、少将井の神輿は南側の御旅所に安置された。
北側に太神宮と稲荷社、南側に御旅所があったというが疑問。

資料２　秀吉の構築した「お土居」・寺町（『京都の歴史　４』より）

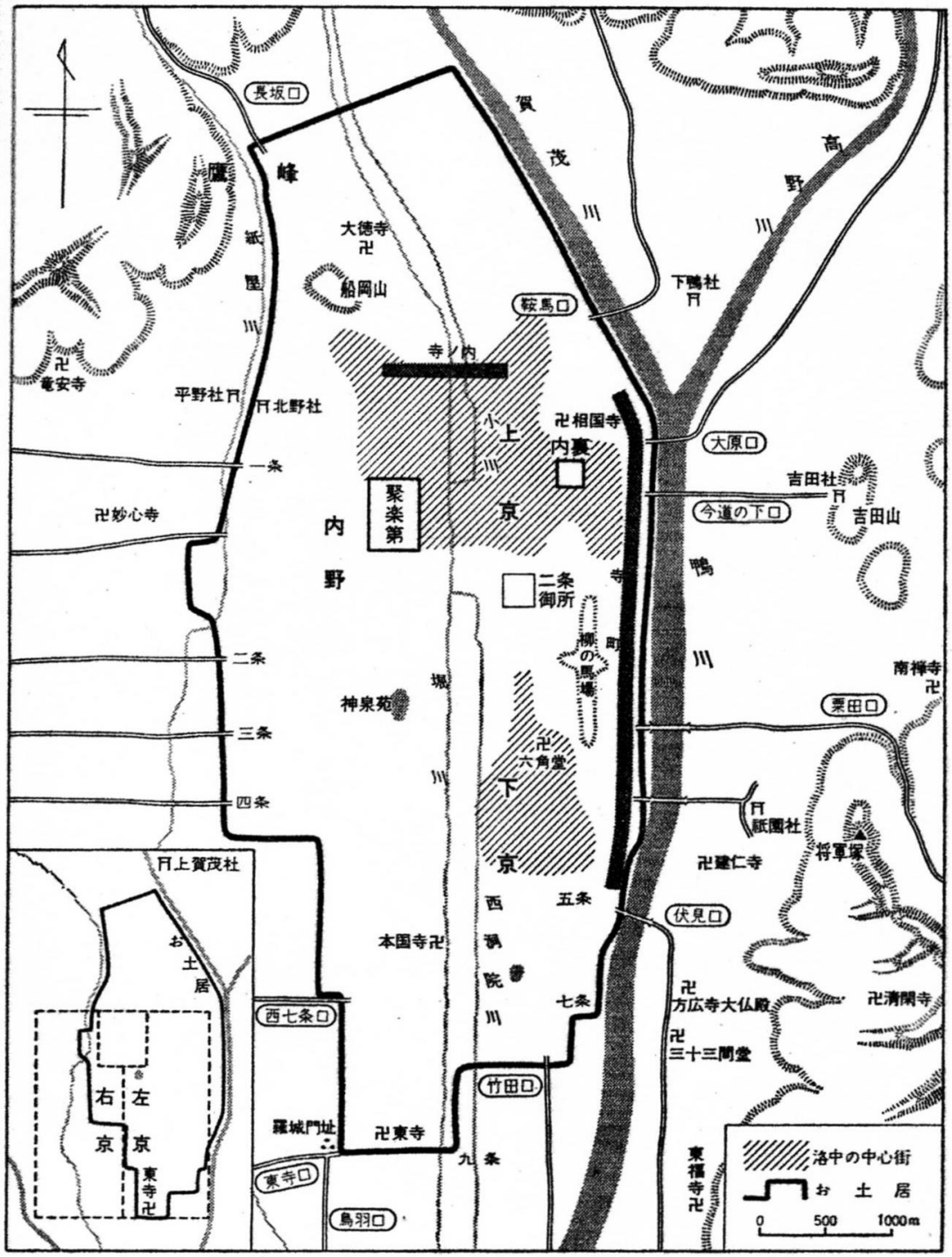


図99　“お土居”に囲まれた京都の町　天正18～19年(1590～91)における京都改造事業のしめくくりともいうべき“お土居”築造が完了した結果，洛中と洛外はこのように明確に区分されるにいたった。両者をつなぐものが「口」(くち)であるが，いわゆる「七口」は「七つの出入口」と解すべきでなく，「七道諸国」，つまり全国各地へ伸びる道路の口の総称と考えるべきである。その「口」が“お土居”完成時，いくつ設けられていたかは決しがたい。西側中程の突出部は俗にいう「お土居の袖」。なお北端部は海抜80～99メートルにも達するが，南端部では24メートルくらい。もちろん京都の地勢をそのまま反映する。内野は大内裏址。右下の小図は平安京との対比を示す。

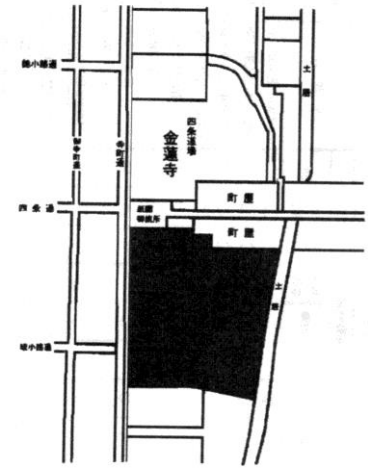
資料３江戸時代前期の祇園御旅所（サントリー美術館本「四条河原図巻」より）

←東　　西→

資料４中世末期の余部屋敷（余部集落）・冠者殿社
（太田美術館蔵「洛外名所図」（四条橋西詰の鳥居は天文 13 年流失）
）

大雲院文書「余部屋敷之内、浄教寺・透玄寺・春長寺事、末代共可為大雲院次第候、仍為後日状、如件、　天正拾九八月二日　　民部卿法印玄以　　大雲院」という文書がある。余部屋敷の範囲は浄教寺・透玄寺・春長寺を含む大雲院の寺地であった。

資料５余部屋敷の範囲（下坂守論文「中世「四条河原」考」より転載）



資料 1

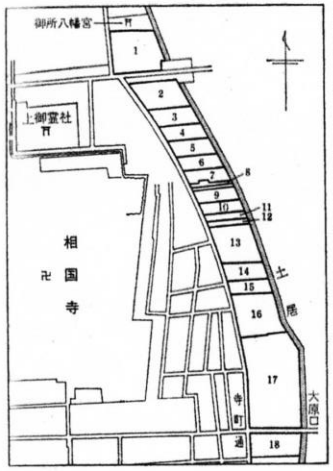
表 11 「寺町」の寺院一覧 (図 101 参照)

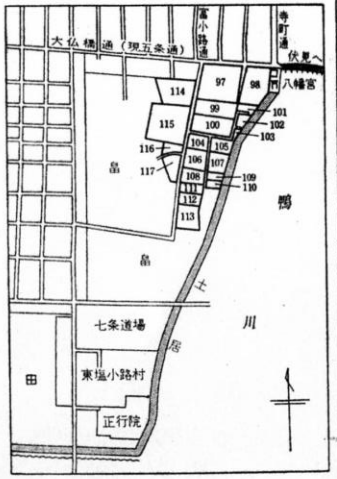
1	●	浄善寺(上善寺)	45		善香院	89	●	透玄寺(等見寺)
2	×	天寧寺	46	●	信行寺	90	●	聖光寺
3	●	西園寺	47		教安寺	91	●	法善寺(?)(法然寺)
4		岩栖院	48	●	生蓮寺	92	●	空也寺
5		崇禅院	49	●	大恩寺	93	●	勝円寺
6	●	花開院(花開寺)	50	●	専称寺	94	●	栗願寺
7		長福寺	51	●	西行寺(西光寺)	95	●	永養寺(?)
8		普国寺	52	●	正念寺	96	●	浄国寺
9	※	歓喜寺	53	◎	福勝寺	97	●	本学寺(本覚寺)
10		安南光院(安楽光院?)	54		見性寺	98	●	新善光寺御影堂
11	●	慈福寺	55	△	大炊道場開名寺	99		来迎院
12	●	光明寺	56	▲	寂光寺	100	●	極楽寺
13	●	阿弥陀寺	57	▲	妙伝寺	101	●	竹林庵
14	●	十念寺	58	▲	要法寺	102		等善寺
15		仏陀寺	59	▲	妙満寺	103		清覚庵(?)
16	▲	本満寺	60	▲	本能寺	104	●	蓮光寺
17	▲	立本寺	61	●	天性寺	105	△	市屋金光寺
18	○	真如堂	62	◎	戒光寺	106	●	長講堂
19		極楽寺	63	●	誓願寺	107		金仏円寿寺(延寿寺)
20		西定院	64		和泉式部寺	108	●	万年寺
21	△	迎勝寺(迎称寺)	65	●	光明寺	109	●	福田寺
22	○	芝薬師大興寺	66		西光寺	110		荘厳寺
23		法性寺	67	●	極楽寺	111		西念寺
24	▲	本禅寺	68		円福寺	112		浄蓮寺
25	●	浄花院	69		西蓮寺	113		宗仙寺
26	○	廬山寺	70		西念寺	114		上徳寺
27	○	遣迎院	71		宝蔵寺(法蔵寺)	115		大子堂
28		清和院(清和寺)	72		法界寺	116		清安寺
29	●	知恩寺(百万遍)	73	●	妙心寺	117		東慶寺
30	○	一条之革堂(行願寺)	74	●	安養寺			
31		常林寺	75	●	禅長寺(善長寺)			
32	●	専念寺	76	●	了蓮寺			
33		長徳寺	77	△	六条道場(歓喜光寺)			
34	●	常念寺	78	●	常楽寺			
35		長徳院	79	●	光徳寺			
36	●	三福寺	80	●	正学寺(正覚寺)			
37		国性寺(国正寺)	81	●	称名寺			
38	●	西性寺(西昌寺)	82	●	西道寺(西導寺)			
39		慈眼寺(侍見寺)	83	●	浄心寺			
40	●	西方寺	84	●	大竜寺			
41		花光寺	85	△	四条道場錦綾山金蓮寺			
42	●	清光寺	86	●	春長寺			
43		実相寺	87	●	大雲院			
44	●	仏光寺	88	●	浄教寺			

凡例

●	浄土	宗
○	天台	宗
◎	真言	宗
▲	日蓮	宗
△	時	宗
×	曹洞	宗
※	臨済	宗

寛永14年「洛中絵図」(宮内庁書陵部蔵)による。寺名は図中の表記に従ったが，他の文献から同一寺院をさすと思われる名称を( )内に適宜補ってある。宗派の区別は『京都坊目誌』ならびにその他の研究によった。印のないものは宗派不明。番号は右頁図中での位置を示す。(?)印あるものは判読しがたい寺名。





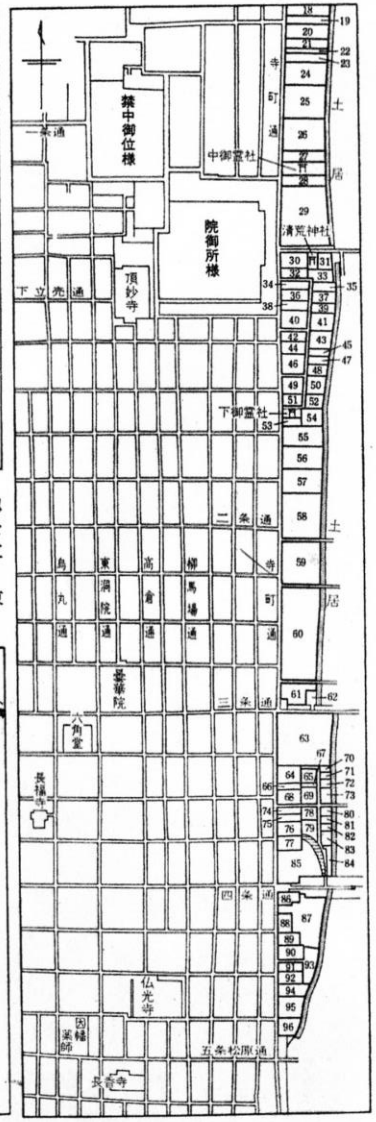


図101 「寺町」の寺院配列 当初の状況は確認しえないので，いま寛永14年7月2日の日付をもつ「洛中絵図」(宮内庁書陵部蔵)により，江戸初期のもようを復元した(表11参照)。上・下の小図は北部と南部。“土居”(お土居)の東は鴨川。便宜上道路名を補った。

追加資料１　元和頃の四条京極付近（大阪市立博物館蔵「洛中洛外図屏風」）

追加資料２　同じく元和頃の四条京極付近（島根県立美術館蔵「洛中洛外図屏風」）